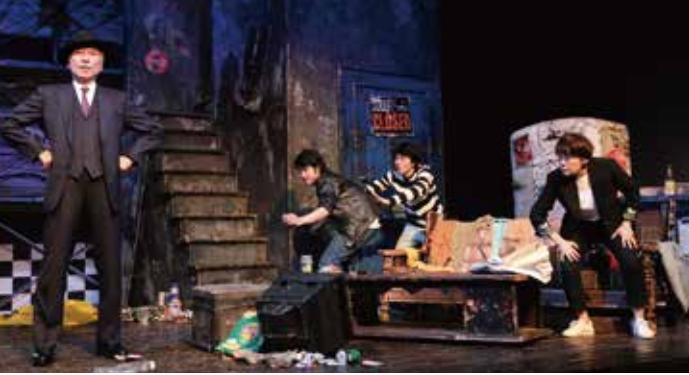


清瀬のバリアフリー演劇に300人を招待



アフリの一環として行われる上演前のバックステージ・ツアーである。舞台に上がって、セットを触ったりして、実際に確かめてから観劇することができる。14:00の開演(途中20分の休憩を挟み)16:30に終演した。出演は「東京演劇集団風」。当日会場では清瀬アールブリュット展(ひだまりの里きよせの皆さんのアート作品)・清瀬市就労継続支援事業所製品販売会を同時開催

バリアフリー演劇とは…

バリアフリー演劇は、こどもから大人まで、障害のある人もない人も、みんなが同じ空間で楽しむことができる素晴らしい体験がバリアフリー演劇です。手話、字幕、音声ガイドがついた、聴覚障害、視覚障害の人も楽しめる演劇です。舞台上に上られるスロープがついていて、こどもや障害のある人が舞台上に上がってもそれを劇の一部としてしまう、舞台と客席のバリアフリー。舞台、セット、照明、音響、すべてを劇団が持ち込む場所を選ばないバリアフリー演劇で、東京演劇集団風が2019年から取り組んでいる。バリアフリー演劇の試みは、すべての人たち、子どもたちが自由に芸術を体現し、それぞれの感性や可能性を發揮するための、新しい芸術の実践となっています。

このプロジェクトで体験格差のバリアフリーを実現したい!

このバリアフリー演劇を多くの人に楽しんでもらいたい。しかし、生の演劇を鑑賞するためには、経済的なゆとりも必要です。障害があることや、家庭の経済事情等によって、その機会がない方がたくさんいます。そのため、上演費用をクラウドファンディングで集め、入場無料での演劇を

清瀬市に住む障害のある人や養護施設で生活するこども、福祉を志す学生などいろいろな方に届けたい!と考え、清瀬市内福祉関係者有志等8名が実行委員会を作り、1年前にこのプロジェクトがスターした。

実行委員長である日本社会事業大学の曾根直樹さん(専門職大学院教員)は次のように語っています。「東京演劇集団風のバリアフリー演劇には「Touch」のほかにも、「ヘレン・ケラー」「星の王子さま」がありますが、これらの作品を見るなかで、「Touch～孤独から愛へ」を清瀬市に住む人たちにも届けたいと思うようになりました。この劇の出演者が織りなす関わりは福祉において大切なことがちりばめられていると感じます」

初の日本社会事業大学クラウドファンディング事業として

クラウドファンディング(以下、略称「クラファン」)は、プロジェクトを立ち上げた人や法人に対し、不特定多数の人がインターネット等を通じて寄付などの形態で資金を供与する仕組みです。これまでの手法では資金調達が難しかった「社会的な課題の解決」等の分野で、この仕組みの普及が広く進んでいます。

日本社会事業大学では、2023年7月学内における研究・教育分野へ寄附を集め大学向けプログラムを開始しました。

清瀬市バリアフリー演劇上演会は、この大学クラファン事業の第1号として、上演資金の寄付を呼びかけた。募集期間9月4日~10月18日、目標額は200万円として実施。募集開始一週間で目標を上回り、寄付総額2,484,000円(寄付者183人)が寄せられた。

実行委員会は「今回初めてクラファンに挑戦し、多くの皆様からご支援をいただき開催することができた。清瀬市に住むすべての人が、多様性を認め合い、ともに生きる街をつくっていくためのひとつの機会にしたい」と話している。

【学生参加者のコメント】少しの工夫や配慮があれば演劇もみんなが楽しむことができます。

これからもバリアフリーの環境を広げていきたいです。

清瀬市バリアフリー演劇上演会プロジェクト

清瀬でバリアフリー演劇を上演したい!

社大同窓会

2024
vol.93

同窓会×大学
パートナーシップ推進



誰もが輝ける場をつくっていきたい

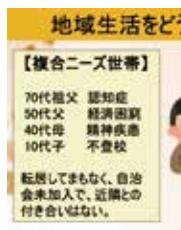
同窓会社会福祉セミナープロジェクト開催報告



11月23日(木・祝)

社会福祉セミナーin静岡

会場：静岡商工会議所
静岡事務所会館（静岡市）



▶学生参加者のコメント◀
このセミナーには、様々な

年代・立場の方が参加されていました。世代を超えて福祉の志が繋がっていることを実感し背筋が伸びる想いでした。在校生参加6名が実践報告の久野さんを囲んで写真を撮らせていただきました。

（福祉援助学科2年山下裕寿実/後列右2人目）



4年ぶりに規制なしの 社大祭となりました

10月28日・29日 第52回社大祭



実行委員会出陣式



みんなのお笑いライブ くるめ・ザ・コメディ



ゆるキャラじゃんけん大会 清瀬市・東村山市とコラボ

お申し込み案内



2024/8/3 同窓会×大学による 社会福祉セミナーin茨城

母校との連携による社会福祉セミナーを開催します。どなたでも参加いただけますので、ご友人、職場の皆さまなどお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

【テーマ】「地域包括ケアシステムの構築に向けて」

—これからの高齢者的生活支援を考える—

セミナー		実践報告
高齢化社会における地域包括ケア	高齢者の居住福祉 ～居住支援と地域福祉～	罪を犯した高齢者・障害者への支援 ～地域生活定着支援センターの実践からの学び～
岡本多喜子氏 日本社会事業大学評議員 明治学院大学名誉教授	井上由紀子氏 日本社会事業大学 専門職大学院 研究科長 教授	酒寄学氏 社会福祉法人芳香会 地域生活定着支援 センター長
日 時 2024年 8月 3 日(土) 15:00～17:30(受付は15:15)	会 場 ホテル日航つくば 本館3階ジュピターウエスト 茨城県つくば市吾妻1丁目1364-1 / つくばエクスプレスつくば駅徒歩2分	開催形式 会場とオンラインの両方で開催 会場参加50名/ZOOM参加50名 参加費無料、どなたでも参加できます。
お申込方法 下記の「お申し込みフォーム」よりお申し込みください。 https://fs220.xbit.jp/b646/form2/ *お申込みいただいたメールアドレスにZoomによるオンライン参加ためのURL又はご来場の案内等をお知らせします。 「同窓会HP」からも申込みできます。⇒ http://jcsw-alumni.com/	 	
お申込期間 5月1日から7月15日まで		

通信で福祉の専門資格を取得し、キャリアアップをめざしませんか

社会福祉士養成課程
精神保健福祉士養成課程
社会福祉主事養成課程

お問い合わせ
日本社会事業大学通信教育科
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30
TEL 042-496-3200
FAX 042-496-3210

日本社会事業大学 通信 

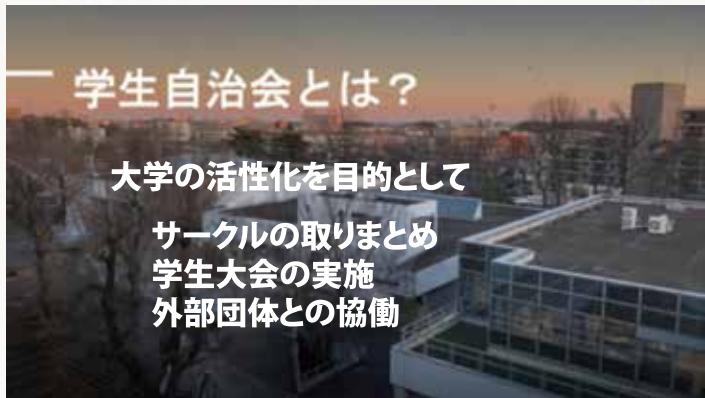
<https://tsushin.jcsw.ac.jp/>

オープニングイベント

来年からの社大祭もよろしくお願いします

第52回
社大祭
Joy n
～ふくしがあるさ～

2023年10月28日（土）・29日（日）
10:00～16:00



大学の活性化を目的として
サークルの取りまとめ
学生大会の実施
外部団体との協働

学生自治会



地域に貢献できる大学を目指す

学生自治会 とは？

大学内の学生、サークル、委員会が、公平でより良いキャンパスライフを目指して各組織との連携、統括を行います。具体的には学生たちの要望を代表して大学に求めるといった学生と大学をつなぐ仕事など、学生同士の協力による豊かな学生生活を目指して活動しています。

自治会活動

■サークルの取りまとめ

- ・サークル協議会と大学との連絡調整
- ・サークル交流会などの企画・運営
- ・サークルの審査・補助

■外部団体との協働

- ・清瀬市を中心に若者の社会参加の機会を作る



活動写真



▲子ども食堂▼



オリフェスでの様子

オリエンテーションフェスティバル



子ども食堂でもあり、
様々な団体や人同士の出会いの場でもある

これからの活動について

様々な団体と協働し 地域に貢献していく

学生の大学生活をより良いものにしていくため、学生大会などを通して意見や要望を取りまとめ学内へ働きかけていきます。

また、地域に存在するだけではなく貢献していく大学を目指すために、様々な団体と協働し、学外での活動も展開していきます。

(会長 一条海斗)



自治会の1年生メンバーです

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

生徒の「居場所」と学びを支援、中学校とコラボ 学生有志団体『ステップタイム』

生徒たちの学びを支援する校内フリースクールが清瀬市内などの中学校に開設されている。

清瀬市立第四中学校には“ステップタイム”として図書室が開放され、日本社会事業大学の学生たちがボランティアとして生徒の見守りを行っている。登校はできても教室に入れないなどの生徒のための「居場所」を校内につくることで登校のハードルを低くする狙いで学校と密に連絡した取り組みが行われている。2022(令和4)年に始まった学生有志団体の実践を紹介する。

子どもの多様性に対応した フリースクール

フリースクールとは一般に、不登校の子どもたちが学習活動、体験活動などの活動を行う民間施設を指す(文部科学省のHP)。フリースクールには様々な種類(ほとんどが通学型で、学校の教室、民家や

生徒の自主性を大切に!! 「登校すること」のハードル を下げる

マンションの一室を居場所とする)があり、自分に合った学校で学ぶことができる事が特徴とされる。このうち、校内型フリースクールは文字通り学校内に設置されたスペースであり、呼称は様々である。全ての学校に設置している市町村は、全国で228ある(2023.3)とされている。



大学祭でのP.R。前列右から3人目が代表の花輪さんです

清瀬市立第四中学校では校舎2階の図書室にフリースクールが設けられている。ここでは、日本社会事業大学のボランティアグループ「ステップタイム」のメンバーたちが、生徒たちの宿題やテスト勉強の見守り等の学習指導や、いろいろ

なお話をしたり相談に乗ったりする。「一人で読書したり自習したりしても構わない。

利用するのは、「学校には来れる

けれども、教室には居づらい、入れない」「学校には行きたくないけど、図書室なら大丈夫」「学校の中でもホツヒ一息つける場所がほしい」など様々な生徒たちである。

より良い居場所づくりを 目指して

この活動を実現するため「ステップタイム」が活動を始めたのは、2022年の6月からである。2023年4月現在のメンバー登録は、

1年12名、2年5名、3年10名、4年4名の計31名で、大学のサークル説明会やオリエンテーションフェスティバルなどで新規メンバーの募集を行っている。

代表者の3年花輪亮佑さん(福祉計画学科)は活動についてこう語ります。「一言で学校に行けないと、いつも、そのきっかけや生徒の考え方はそれです。自分たちができないことは限られるが、まずはこう

校内フリースクールの設置は、2019年ごろ横浜市の小学校で始まつたとされており、文部科学省の調査では、2022年度の不登校の小中学生は29万9048人。2年連続で前年度比2割超の増加となっている。ステップタイムの生徒、学校、地域と連携した子どもに寄り添うボランティアの活動が今後さらに期待されている。

【日本社会事業大学ステップタイム】

スローガン: 生徒の自主性を大切に!! 教室以外の居場所「登校すること」のハードルを下げる

活動時間: 中学校が休業日orテスト期間以外の平日 9:00 ~12:40
各自大学の時間割に合わせて

活動目標: ステップタイムがより良い居場所になるように常にアップデートしていく活動を目指します。

学生ボランティア参加者募集メッセージ:

将来子どもの居場所に関わりたい方、SSW課程(スクールソーシャルワーク履修モデル)の登録を考えている方、ボランティア活動を探している方など一緒に活動しましょう!

gmail連絡先アドレス:
steptimu2023@gmail.com

QRコード:

社大生限定読み取り可

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

JCSW ネットワークを広げよう

同窓生が活躍する福祉現場の最前線から

～OB・OG応援メッセージ～

同窓会では、2016年（平成28年）から「就活・全国フェアin社大」（2020年から『福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会』）を開催し、福祉現場の卒業生が後輩の在校生たちをサポートしています。コロナ禍で2021年からオンライン開催。参加施設は、同窓生のいる22法人・延39施設（高齢12、障がい16、児童10施設他）。

同窓会は、これからも在校生との交流を充実させ、社大教育と実践をしっかりとていきます。

この交流会に当初から参加いただいている東京聖労院を訪問しました。



社会福祉法人 東京聖労院
<https://www.seirouin.or.jp/>

はじまりは、生活困窮者救済事業

東京聖労院は、大正15年東京浅草での生活困窮者の救済事業が始まりです。1996年から高齢者福祉、2003年からは児童関係の事業を進め、現在は都内4つの区市（清瀬市、小金井市、北区、港区）で児童館、学童クラブ等の運営を行っています。全事業所14カ所、職員は730人あまりです。同窓生は、当法人の和田敏明理事長が社会福祉学部6期生。在職職員は、学部卒13名、研究科1名の計14名です。

Q.皆さんのプロフィールをお聞かせください



小滝一幸さん 埼玉県所沢市生まれ、学部26期、1986年卒。清瀬にある特別養護老人ホーム清雅苑の施設長です。

（平成8年）に開設した法人の第1号施設であり、介護保険事業としてショートステイ、在宅サービスセンター、居宅介護支援、ヘルパーステーション、また清瀬市より地域包括支援センターの受託運営も行っています。在学時は準硬式野球部、1部ベストナイン（投手部門）、2部リーグ最優秀投手の表彰経験があります。

丹直道さん 山形県生まれ、学部57期、2017年卒。在学時は介護福祉コース。サークルはバスケットボールサークル



GO-Getters。入職後清雅苑に配属され6年

謹続。現在同施設に同窓生7名が配属されています。



来海(きまち)友哉さん 滋賀県生まれ、学部43期、2003年卒。北区立梅木小学校内にある梅木放課後子ども総合プランの配属です。在学時はラグビー部。4年時には主将を務め、2部優勝。

Q.入職された理由や仕事の内容は？

丹さん 祖母の介護がしたくて、質の高い技術と知識が学べる日本社会事業大学に入学し、介護の楽しさを知りました。入職後に腰を痛め、直接介護の仕事は断念したもの、現在は相談員として施設と外部の連絡・調整、ご利用者本人とそのご家族のサポートをしています。

来海さん 在学時にタイの児童福祉施設に1年間留学したことを機に児童福祉分野の仕事に興味を抱きました。就職活動時期に東京聖労院の大型児童館オーパ二ング正規職員募集を知り応募したことがきっかけです。仕事の内容は0～18歳を対象とした児童館の業務や小学校内に併設された放課後子ども教室、学童クラブの業務を行っています。

Q.同窓会の『OB・OGとの交流会』に参加されてのご感想・意見をお聞かせください

丹さん コロナ禍でのオンライン実施になつて以来、画面越しでのやり取りになることで不安を感じましたが、学生の皆さんが熱心に聞いてくださったおかげで、有意義な時間となっています。新型コロナの影響で思うようなキャンパスライフを送ることの出来ない日々が続いたと思いますが、頑張ってください。



小滝さん オンラインは便利ですが、やはり対面に勝るものはありません。お互いの想いがストレートに伝わるような場となると嬉しいですね。OB・OGにとって母校を訪ねることは喜びであり、在校生との触れ合いは大きなります。

来海さん 在校生の皆さんが一人でも多くの交流会に参加くださることを期待しています。

在校生への応援メッセージ!!

丹さん 大学での実践的な実習経験が仕事に繋がっています。これまで、経験が必要な相談の仕事に就けたのは、社大の先生のアドバイスのおかげであり、実践的な実習経験が役に立っています。介護の仕事はご利用者さまの「ありがとう」が嬉しいやりがいのある仕事です。仕事は時に辛いこともあります、それ以上にやついて良かったと思うことが多い数多くあります。ぜひ一緒に頑張りましょう！！

来海さん 社大で学んで良かったこともエピソードもたくさんあります。1つに絞ることはできませんが、タイの児童養護施設やグループホームで現地の児童や職員さんと一緒に過ごすことができたのは自分の人生にとって良い経験となりました。何十年も経つた今でも当時のことが鮮明に思い出されます。社大のおかげで行くことができた留学なので本当に感謝しています。貴重な大学時代ができる経験は楽しいこともつらいことも色々とあります。それがすべてが今後の人生において糧になるとと思います。躊躇うことなく、思いっきりたくさんの経験をしてください。

Q.母校愛が深まる今日この頃です

小滝さん 私が学んだ原宿時代は1学年100人、全学でも400名、今よりも更に小さな大学でした。その分、誰もが顔見知り、とてもアットホームな環境の中で4年間を過ごしました。眞面目に勉学に励む学生ではなかつた分だけ、周囲の方々に心配をかけ、見守られ、支えていただいた記憶が強く残っています。そのおかげで定年を過ぎた今でも楽しく福祉の仕事を携わることが出来ています。この歳になり、自分でも不思議なくらい母校愛が深まる今日この頃です。



事務局報告

「忘我の愛と智の灯」のもと、 社大教育と実践をしっかりとつないでいこう！！

10月21日

第1回運営委員会 ・事務局合同会議

本年度事業計画の進捗状況の確認など以下の項目について意見交換と情報共有を行いました。

- 社会福祉セミナーの推進について
- 福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会(就活・全国フェアーin 社大)
- 母校創立80周年に向けてなど



支部活動報告

岩手県支部

精銳8名の参加。参加は健康の証



令和5年8月12日にホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで岩手支部総会を開催しました。精銳8名の参加でしたが、少人数のためチヨッピリ淋しさも漂いました。それでも同窓会に参加できるのは健康な証だと自慢し合いました。

大谷翔平の活躍に胸躍らせている方、畠づくりとスポーツに励む方、郷土史研究に取り組まれている方、岩手の福祉史と先人の功績を研究されている方など、皆さま充実しておられました。

参加者の最高齢、熊谷彦人さんは87歳。運転免許証を返納しても不便だが、だいぶ慣れてきたとのことでした。岩手の同窓生では最高齢の白澤幸子様(研究科11期、90歳大槌町在住)からは昨年度は活動費のご寄付、この度は焼き海苔の差し入れをいただきました。ただ、本学の木戸宣子先生がご不幸のため、急遽欠席となつたことが、大変残念でした。(支部長 右京昌久)

栃木県支部

参加者の年齢差50年！元気です栃木支部

令和5年9月30日、参加者10名にて栃木県支部の総会を開催しました。

木村同窓会副会長から母校の状況をうかがった後、参加者同士で近況報告を交換しました。年代や経験を超えて交流できるのが同窓会の素晴らしいところだと、あらためて感じた総会となりました。(事務局長 菊池浩史)



沖縄地域 福祉セミナー

10月12日・13日

浦添市社会福祉センター

A校章入りUSBメモリー プレゼント 抽選で5名様に

学生自治会による卒業記念品「木製USBメモリー(校章入り)



B同窓会特製フリースタンド プレゼント 抽選で2名様に

メガネなど小物をきれいに整理できるスタンドです。校章とアガベ像が彫刻されています



住所・氏名及び「USBメモリー」と「フリースタンド」の希望別を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉 042-496-3051

〈E-mailの方〉 kouyu@jcsw.ac.jp

同窓会「五味基金」による 学生支援奨学金について

この奨学金は、本同窓会の「五味基金」から2024年度に日本社会事業大学社会福祉学部に入学する新入生に対し、1名につき50万円を奨学金として支給する奨学金事業です。

助成基準は、「児童養護施設に入所している児童」が対象となります。社大入学予定者で候補者がいる場合は、同窓会事務局に電話等で連絡・相談ください。

【お問い合わせ】 日本社会事業大学同窓会

TEL:042-496-3053 E-mail:kouyu@jcsw.ac.jp

“母校・在校生への支援”のため 会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会会長 竹田幹雄



スマートフォン決済ができる様になりました

今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができるようになりました。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。

住まいを失った方への支援を



特定非営利活動法人 ホームレス支援のお仕事に関わっていますが、実際の活動内容は？



本田 優斗

(ほんだ ゆうと)

学部60期
(2021年卒)



1999年2月20日生まれ。2021年日本社会事業大学福祉計画学科卒業。同年4月NPO法人ほっとボット入職。現在副代表。趣味、特技：散歩、温泉めぐり（サウナ）、読書

あり、その中で生活に困窮された方への相談業務や、住居を喪失した方への居住支援も携わっています。

生活に困窮される要因は様々で、失業、疾病、離婚など多岐にわたります。多くの方は、行政に相談しますが窓口をたらい回しにされた丁寧に対応してもらえたかった、そもそも相談の窓口がなく、どこに相談したらよいのかわからない。そんな方々から相談を寄せられることが多く、社会福祉士として、社会保障制度の紹介や関係機関との調整支援等を無料で行っています。

実際に住居を喪失された方については、その日から入居できる住まいを提供し、社会保障制度に繋げながら、生活の助言や通院の同行、関係機関との調整支援などをを行い、生活の基盤を整えます。原則1年内に、アパート等の安定した住まいに移行できるよう支援を行っています。

この分野の仕事を目指した理由

私は現在、埼玉県さいたま市にある「独立型社会福祉士事務所特定非営利活動法人 ほっとボット」で副代表を務めています。「貧困問題の根絶」を理念としている法人で

この分野を仕事として目指したのは、在学中に社会福祉士の実習を現在の法人で行ったことがきっかけです。

当時は障害分野に関心を持ついましたが、貧困問題を通じて展開される分野を横断した支援と、実際に活動されているスタッフの、ソーシャルワーカーとしての熱い想いに感銘を受け、自身の目指すソーシャルワーカー像と合致したのがきっかけです。

実際に入職してからは日々の支援を行う上で、生活保護、司法、介護保険、障害福祉、医療など、幅広い社会保障制度や社会情勢に関する知識を身につけています。

勉強を続けることを意識しています。

また、NPO法人として、自らホームレス状態にある方の元を訪問したり、講演活動や地域でもボランティア活動など、制度に縛られない、自由で独創的な活動を行えるのも現在職業の魅力です。

学生時代の思い出は



学生時代の思い出は、松窓寮（学生寮）で過ごしました日々の事です。

当時は寮長を務めていたため、各居室にエアコンを導入したり、寮の利用料を引き落とす

今後の活動と抱負などについて（日本社会事業大学で学ぶことの魅力も踏まえて）

在校生・母校・同窓会へメール



在学生や同窓会（O.B.-O.G.）の皆様とは、きっとどこかの現場や勉強会でお会いするかと思います。ぜひその際は学生時代の話やそれぞれの実践について花を咲かせましょう。これからもこの日本社会事業大学と共に、日本の社会福祉の発展に寄与していくければと思います。

私は一人のソーシャルワーカーとして、「いつだれが、どんな状況になつても安心して生活を送ることができる社会を目指す」という目標を掲げ、日々の福祉実践に取り組んでいます。一方で、このような社会を実現させるためには、人々が多種多様な価値観を受け入れるための余裕や盤石な社会保障制度が必要不可欠です。

社会を変えていくには、まだまだ小さな存在ですが、日本社会事業大学を通じて学んだ福祉の「知識」「価値」「概念」を活かしながら、現場での実践を積み重ね、多くの人を巻き込みながら目指していきたいと考えています。

在校生・母校・同窓会へメール



卒業してから気が付いたことで、本学が歴史的な大学というこ

ともあり、どこに勤めてもその職場や関係機関に大学のOB・OGがいることに驚かされました。どの分野でも第一線で活躍している先輩方が非常に多く、日本社会事業大学を通じて生まれる「人脈」は福祉業界で活動していく中で非常に大きな助けとなっています。それだけではなく、卒業した後でも大学に立ち寄り、図書館を利用することが可能なので、卒業してからでも勉強を続ける上での母校をプラットフォームとして活用できるのは、他の大学にはない大きな強みです。